

Ⅲ. 分析編

- ・本項では、「Ⅱ. 基礎集計編」にてとりまとめた区での住み心地、政策・施策に対する満足度・重要度、区政・地域活動への参加意向といった基礎的な情報を深掘りし、回答の背景にある区民ニーズをより深く把握する目的で、一部統計的手法を用いた各種分析を実施しました。
- ・本項にて実施した分析は、「1. 今後の施策の方向性に関する分析」「2. 区政への参加意向に関する傾向分析」「3. 成果指標の見直しの考え方と見直し案」の3つであり、各々の分析の目的は以下のとおりです。

<分析編の全体構成>

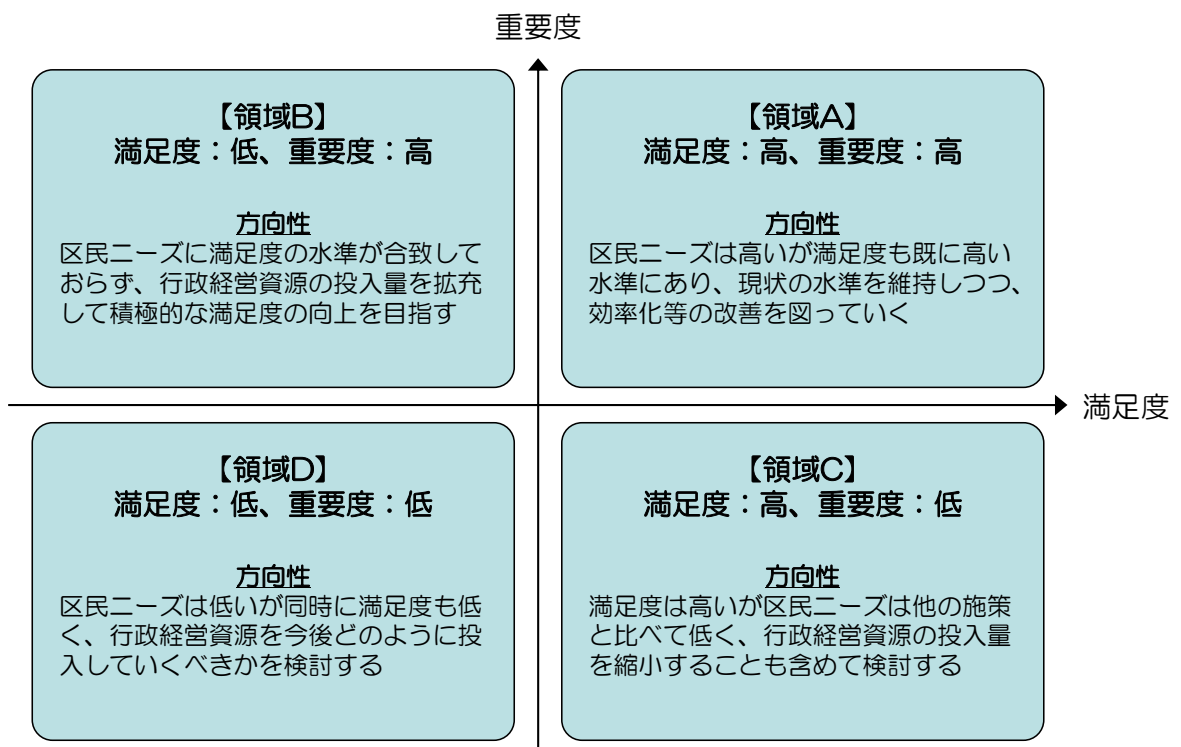
分析名	目的
1. 今後の施策の方向性に関する分析	・区民の満足度向上のために、行政経営資源(職員、施設・資材、予算、情報資産)を重点投入すべき施策を検討する際の参考とする。
2. 区政への参加意向に関する傾向分析	・区政・地域活動に対する志向性により分類を行い、分類間の属性の差異を示し、協働の可能性のある層を明らかにする。
3. 成果指標の見直しの考え方と見直し案	・本調査で聴取した施策の方向に対する満足度を中心とした現行の基本計画に掲げられている成果指標の妥当性を評価する。

1. 今後の施策の方向性に関する分析

(1) 施策項目に対する満足度・重要度の2軸分析

- 前述の施策項目の満足度・重要度の加重平均値について、縦軸に重要度、横軸に満足度をとった図表（散布図）をつくり、各施策項目が領域 A～D のいずれに入るかによって、その施策項目に対する今後の行政経営資源（職員、施設・資源、予算、情報資産などの区政運営に必要な人的・物的資源）の投入を検討する際の参考にします。
- 領域ごとの方向性は以下のとおりですが、これら方向性を検討の起点としつつも、総合的に見て真に区民にとって望ましい施策の全体バランスを慎重に検討し、限りある行政経営資源をより効果的・効率的に配分していく必要があります。
- なお、以下に示す散布図においては、各施策項目の満足度・重要度を相対的に捉えるため、縦軸・横軸は満足度・重要度の平均値を通る軸としています。

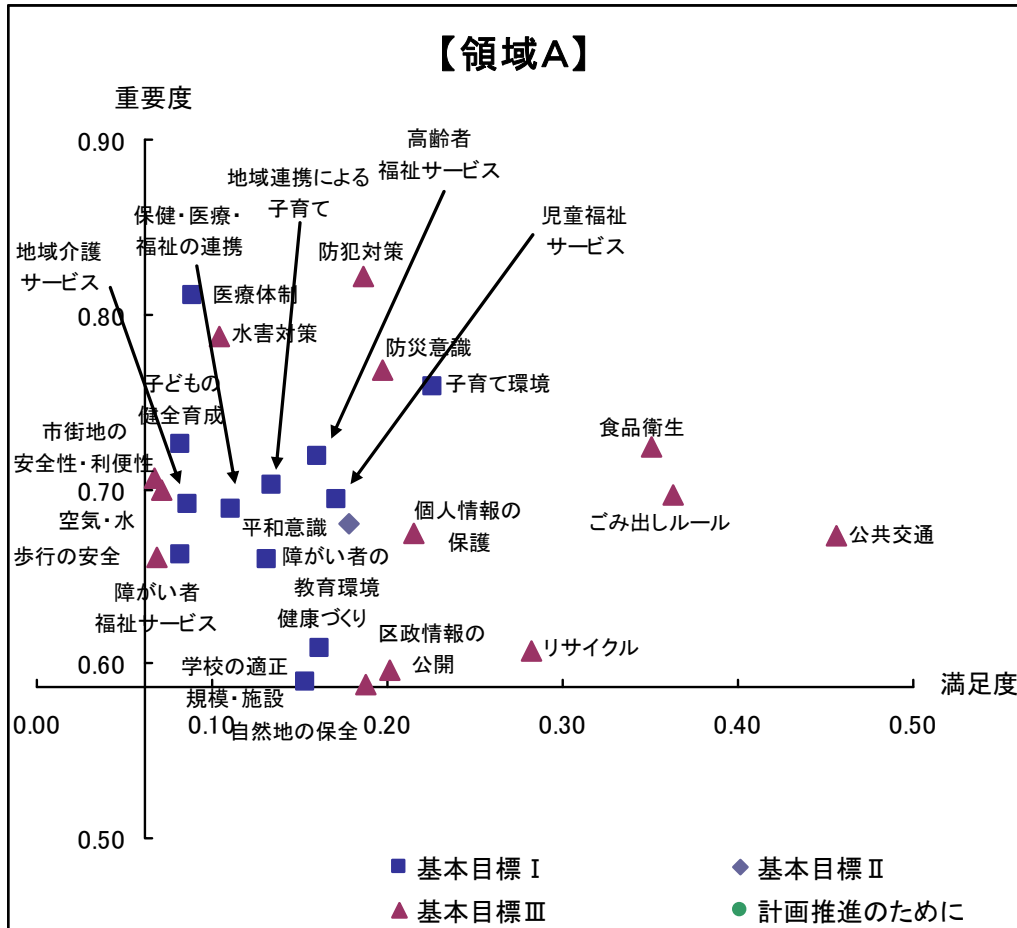
<満足度・重要度の2軸分析：領域ごとの方向性>



①領域 A(満足度:高、重要度:高)

- ・ 満足度・重要度ともに高い領域 A には、「子どもの健全育成」「子育て環境」など基本目標 I の子育て支援関連の施策項目を中心とした26項目の施策項目が該当しています。

<満足度・重要度の2軸分析:領域 A の散布図>



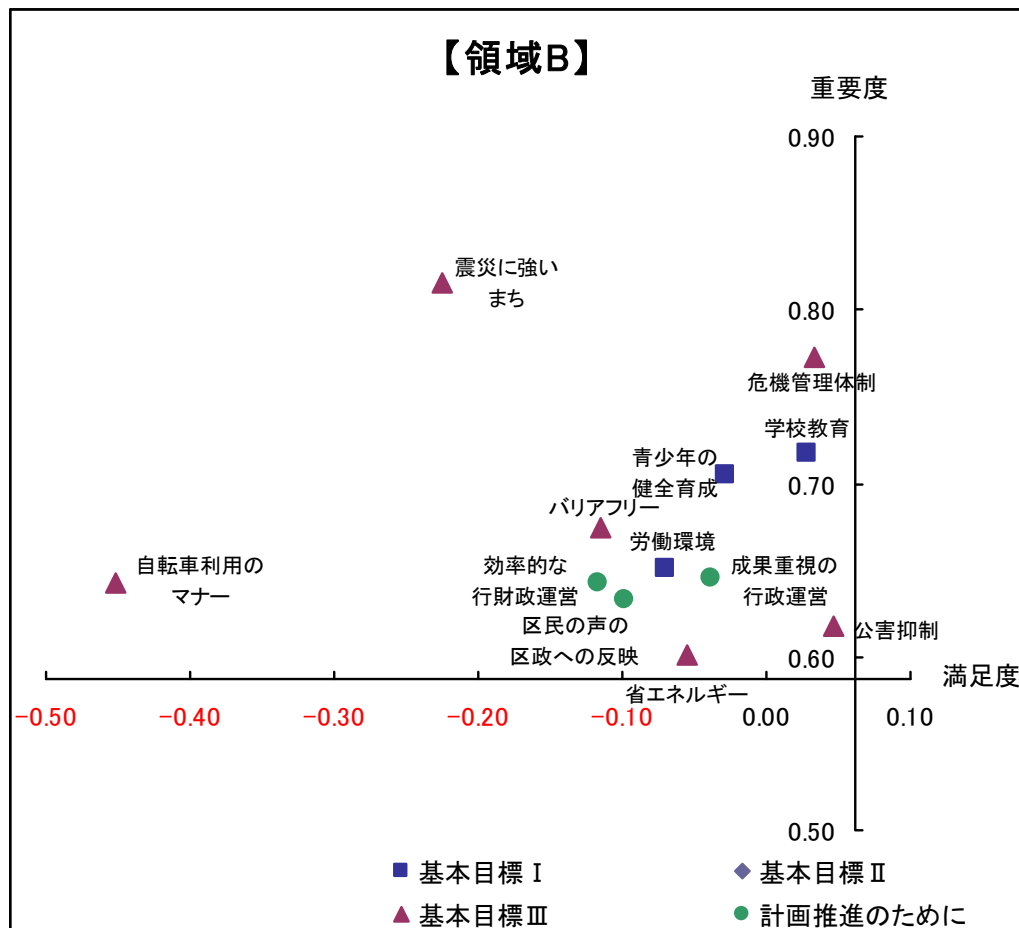
領域	該当する施策項目		
領域 A	子育て環境(Ⅰ)	児童福祉サービス(Ⅰ)	子どもの健全育成(Ⅰ)
	地域連携による子育て(Ⅰ)	障がい者の教育環境(Ⅰ)	学校の適正規模・施設(Ⅰ)
	健康づくり(Ⅰ)	医療体制(Ⅰ)	保健・医療・福祉の連携(Ⅰ)
	高齢者福祉サービス(Ⅰ)	障がい者福祉サービス(Ⅰ)	地域介護サービス(Ⅰ)
	平和意識(Ⅱ)	防災意識(Ⅲ)	防犯対策(Ⅲ)
	食品衛生(Ⅲ)	水害対策(Ⅲ)	市街地の安全性・利便性(Ⅲ)
	自然地の保全(Ⅲ)	空気・水(Ⅲ)	ごみ出しルール(Ⅲ)
	リサイクル(Ⅲ)	公共交通(Ⅲ)	歩行の安全(Ⅲ)
	個人情報の保護(Ⅲ)	区政情報の公開(Ⅲ)	—

※()内はその施策の方向が該当する基本目標(「計画推進のために」に該当する場合、(推進)と記述)

②領域 B(満足度:低、重要度:高)

- ・ 重要度は高いが満足度が低い領域 B には、「危機管理体制」「震災に強いまち」など基本目標Ⅲの都市の安全対策関連の施策項目を中心とした12項目の施策項目が該当しています。

<満足度・重要度の2軸分析:領域 B の散布図>



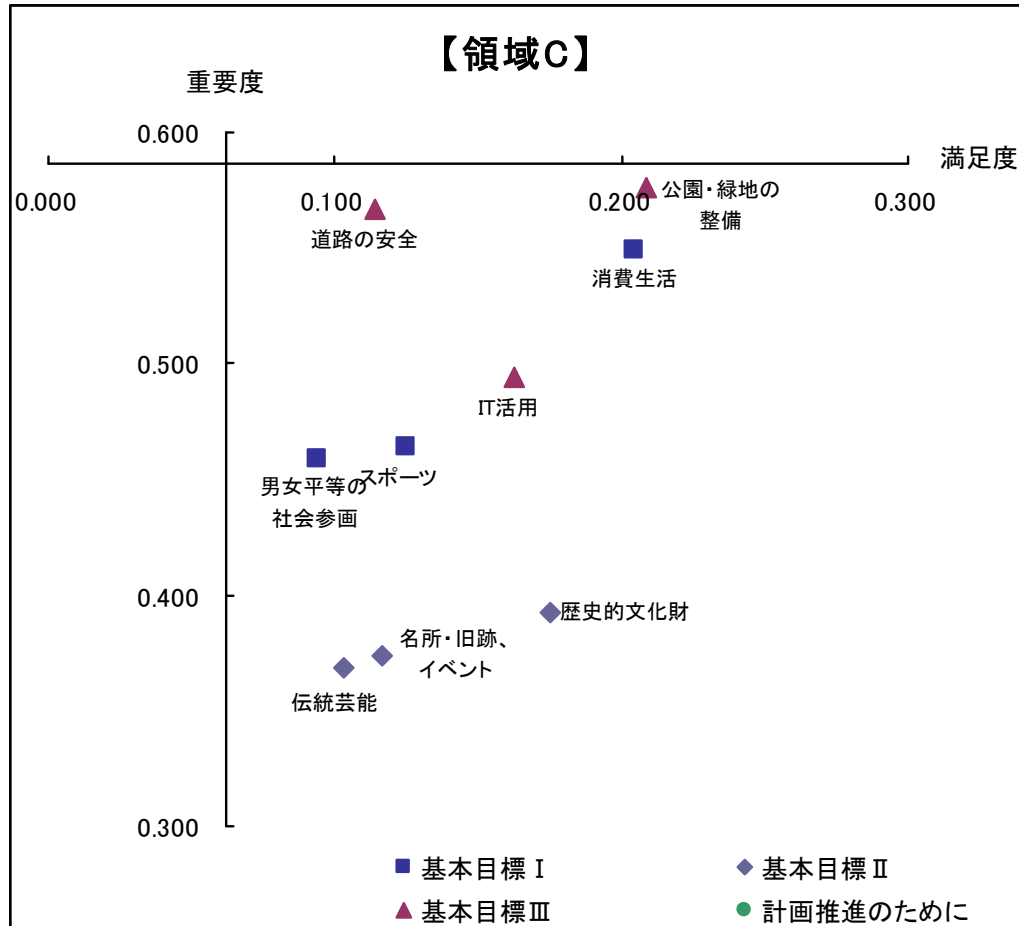
領域	該当する施策項目		
領域B	学校教育 (Ⅰ)	青少年の健全育成 (Ⅰ)	労働環境 (Ⅰ)
	危機管理体制 (Ⅲ)	自転車利用のマナー (Ⅲ)	震災に強いまち (Ⅲ)
	省エネルギー (Ⅲ)	公害抑制 (Ⅲ)	バリアフリー (Ⅲ)
	区民の声の区政への反映 (推進)	効率的な行財政運営 (推進)	成果重視の行政運営 (推進)

※ ()内はその施策の方向が該当する基本目標(「計画推進のために」に該当する場合、(推進)と記述)

③領域 C(満足度:高、重要度:低)

- ・ 領域 C には、「名所・旧跡、イベント」「伝統芸能」など基本目標Ⅱの文化・芸術振興関連の施策項目を中心とした9項目の施策項目が該当しています。

<満足度・重要度の2軸分析:領域 C の散布図>

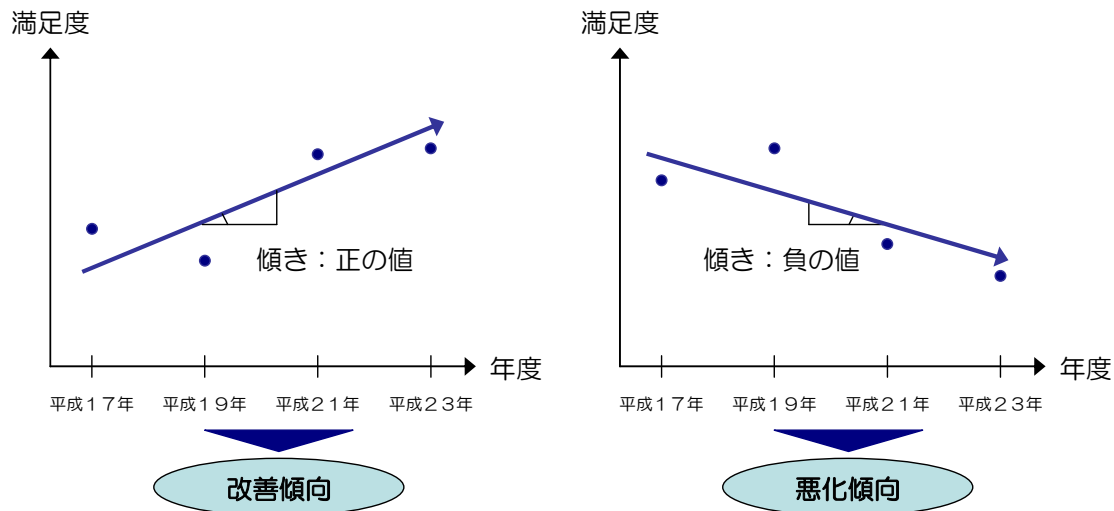


領域	該当する施策項目		
領域C	スポーツ(Ⅰ)	男女平等の社会参画(Ⅰ)	消費生活(Ⅰ)
	名所・旧跡、イベント(Ⅱ)	伝統芸能(Ⅱ)	歴史的文化財(Ⅱ)
	公園・緑地の整備(Ⅲ)	道路の安全(Ⅲ)	IT活用(Ⅲ)

※()内はその施策の方向が該当する基本目標(「計画推進のために」に該当する場合、(推進)と記述)

(2) 経年推移の観点を加えた満足度・重要度の2軸分析

- ・ 前述の「(1) 施策項目に対する満足度・重要度の2軸分析」の各領域の基本方針に加えて、基本計画及びいたばし No.1 実現プラン2015の成果指標として平成17年度の区民満足度調査より同一の内容のままで継続して調査対象となっている47項目に関しては、満足度の経年推移(＝満足度が改善傾向にあるのか、悪化傾向にあるのか)を踏まえた解釈が可能となります。
- ・ まず、平成17年度の区民満足度調査より調査対象となっている施策項目に関して、前述の加重平均による満足度を算出し、その時系列方向の近似直線の傾きを求めます。傾きが正の値の場合はその施策項目の満足度は改善傾向にあり、負の値の場合はその施策項目の満足度は悪化傾向にあると判断できます。



- ・ 2軸分析による各領域の基本方針に経年推移の傾向(改善傾向／悪化傾向)を加味すると、以下の表のとおり解釈ができますが、あくまで施策を検討する際の参考とするものです。

＜満足度・重要度の2軸分析と経年推移の組み合わせの考え方＞

		満足度・重要度の2軸分析結果			
		領域 A (満足度：高、重要度：高)	領域 B (満足度：低、重要度：高)	領域 C (満足度：高、重要度：低)	領域 D (満足度：低、重要度：低)
経年推移	方向性(再掲)	区民ニーズは高いが満足度も既に高い水準にあり、現状の水準を維持しつつ、効率化等の改善を図っていく	区民ニーズに満足度の水準が合致しておらず、行政経営資源の投入量を拡充して積極的な満足度の向上を目指す	満足度は高いが区民ニーズは他の施策と比べて低く、行政経営資源の投入量を縮小することも含めて検討する	区民ニーズは低いと同時に満足度も低く、行政経営資源を今後どのように投入していくべきかを検討する
	改善傾向	現在のままで十分に満足度の水準を維持可能	現在の実施方法で満足度を改善可能であり、行政経営資源の投入量の拡充を若干抑制することも含めて検討	急激な満足度低下につながらない程度に、行政経営資源の投入を抑制することも検討	改善の途上にある可能性が高く、現状を維持しつつ、慎重な見極めが必要
	悪化傾向	悪化傾向が継続せぬよう、行政経営資源の投入量は維持しつつ、実施方法を改善	行政経営資源を投入するだけでなく、実施方法も見直しも含めて検討	今後の施策のあり方を慎重に見極め、行政経営資源の投入量を縮小することも含めて検討	今後の施策のあり方の見直しも含めて検討

- ・ まず、平成17年度の区民満足度調査から今回(平成23年度)調査までの満足度の加重平均値とその時系列方向の近似直線の傾きは、以下の表のとおりです。

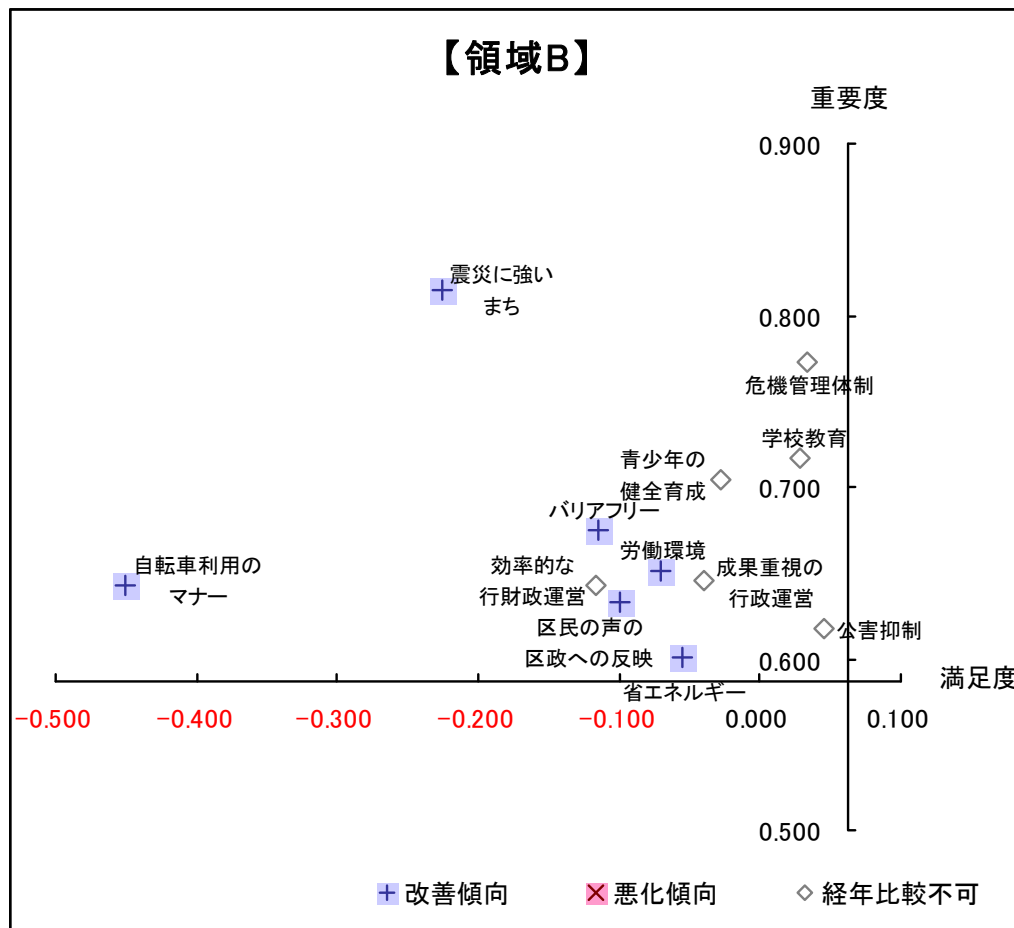
＜平成17年度調査から今回調査までの経年推移＞

施策項目	加重平均				傾き	
	平成17年度	平成19年度	平成21年度	平成23年度	実数	傾向
子育て環境	0.09	0.19	0.17	0.45	0.11	↗ 改善傾向
児童福祉サービス	0.03	0.12	0.14	0.34	0.09	↗ 改善傾向
子どもの健全育成	-0.16	-0.18	-0.09	0.16	0.11	↗ 改善傾向
地域連携による子育て	-0.07	-0.06	0.01	0.27	0.11	↗ 改善傾向
健康づくり	0.25	0.15	0.18	0.32	0.03	↗ 改善傾向
医療体制	0.21	-0.06	0.04	0.18	0.00	↗ 改善傾向
生涯学習	0.09	0.05	0.02	0.11	0.00	↗ 改善傾向
スポーツ	0.17	0.07	0.09	0.25	0.03	↗ 改善傾向
住居の広さ	-0.01	-0.10	-0.11	0.02	0.01	↗ 改善傾向
高齢者福祉サービス	0.27	0.12	0.05	0.32	0.01	↗ 改善傾向
障がい者福祉サービス	0.13	0.09	-0.01	0.16	0.00	↗ 改善傾向
家事・育児・介護の男女協力	-0.07	0.00	0.00	0.11	0.06	↗ 改善傾向
男女平等の社会参画	0.03	0.11	0.08	0.19	0.05	↗ 改善傾向
労働環境	-0.23	-0.18	-0.30	-0.14	0.02	↗ 改善傾向
消費生活	0.10	0.10	0.14	0.41	0.10	↗ 改善傾向
コミュニティー活動	0.05	0.12	-0.11	-0.04	-0.05	↘ 悪化傾向
ボランティア・NPO活動	-0.02	0.02	-0.09	-0.09	-0.03	↘ 悪化傾向
魅力ある商店街	-0.06	-0.10	-0.14	0.06	0.03	↗ 改善傾向
活力ある工業	-0.36	-0.29	-0.41	-0.20	0.03	↗ 改善傾向
農地の保全・活用	-0.27	-0.29	-0.37	-0.23	0.01	↗ 改善傾向
新産業創出	-0.37	-0.39	-0.45	-0.30	0.01	↗ 改善傾向
名所・旧跡、イベント	-0.02	0.05	-0.05	0.23	0.07	↗ 改善傾向
伝統芸能	0.21	0.07	0.04	0.21	0.00	↘ 悪化傾向
歴史的文化財	0.29	0.16	0.13	0.35	0.01	↗ 改善傾向
文化芸術	0.13	0.03	-0.02	0.07	-0.02	↘ 悪化傾向
国際交流	-0.15	-0.25	-0.27	-0.26	-0.04	↘ 悪化傾向
平和意識	0.14	0.08	0.07	0.36	0.06	↗ 改善傾向
防災意識	0.28	0.14	0.15	0.39	0.04	↗ 改善傾向
防犯対策	-0.32	-0.30	-0.09	0.37	0.23	↗ 改善傾向
食品衛生	0.45	0.24	0.52	0.70	0.10	↗ 改善傾向
自転車利用のマナー	-1.04	-1.02	-0.94	-0.90	0.05	↗ 改善傾向
震災に強いまち	-0.49	-0.51	-0.37	-0.45	0.03	↗ 改善傾向
水害対策	0.30	0.26	0.31	0.21	-0.02	↘ 悪化傾向
自然地の保全	0.28	0.21	0.30	0.37	0.04	↗ 改善傾向
空気・水	-0.47	-0.38	-0.10	0.14	0.21	↗ 改善傾向
まちなみ・景観	-0.31	-0.27	-0.19	-0.13	0.06	↗ 改善傾向
省エネルギー	-0.16	-0.18	-0.09	-0.11	0.02	↗ 改善傾向
ごみ出しルール	0.32	0.37	0.51	0.73	0.14	↗ 改善傾向
リサイクル	0.35	0.40	0.49	0.57	0.08	↗ 改善傾向
快適なまち	-0.05	-0.05	0.01	0.12	0.06	↗ 改善傾向
公共交通	0.74	0.70	0.72	0.91	0.05	↗ 改善傾向
道路の安全	-0.07	-0.08	0.25	0.23	0.12	↗ 改善傾向
バリアフリー	-0.27	-0.23	-0.17	-0.23	0.02	↗ 改善傾向
IT活用	0.33	0.40	0.29	0.33	-0.01	↘ 悪化傾向
個人情報の保護	0.02	0.10	0.22	0.43	0.13	↗ 改善傾向
区政情報の公開	0.22	0.17	0.23	0.40	0.06	↗ 改善傾向
区計画への参加機会	-0.09	-0.09	-0.08	-0.03	0.02	↗ 改善傾向
区民の声の区政への反映	-0.21	-0.21	-0.18	-0.20	0.01	↗ 改善傾向
区職員の対応	0.10	0.05	0.09	0.24	0.04	↗ 改善傾向
区への愛着	0.57	0.56	0.65	0.82	0.08	↗ 改善傾向
区への誇り	0.16	0.11	0.24	0.27	0.04	↗ 改善傾向

②領域 B(満足度:低、重要度:高)

- 満足度・重要度の2軸分析において領域 B に該当する12項目の施策項目のうち、改善傾向にある施策項目が6項目あり、悪化傾向にある施策項目はありません。

<経年推移の観点を加えた満足度・重要度の2軸分析:領域 B の散布図>



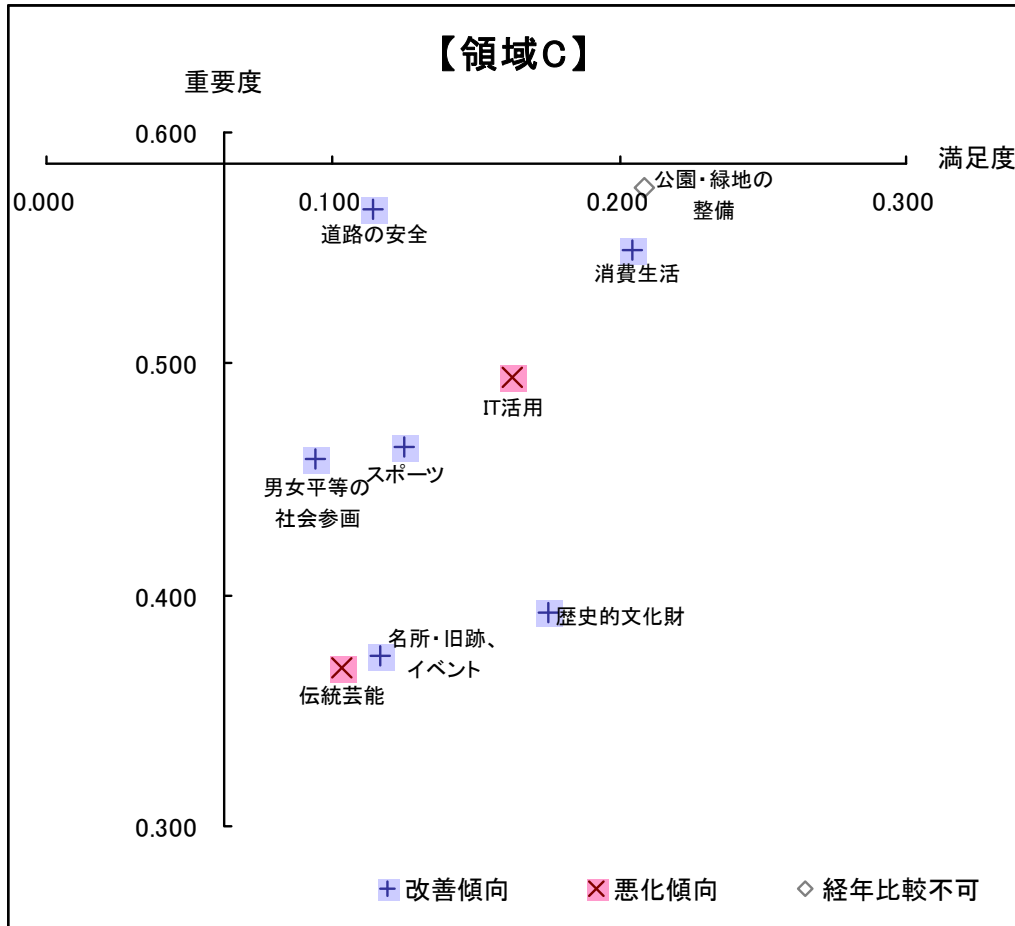
領域	経年推移	該当する施策項目		
領域 B	改善傾向	労働環境 (I)	自転車利用のマナー (III)	震災に強いまち (III)
		省エネルギー (III)	パリアフリー (III)	区民の声の区政への反映 (推進)

※ ()内はその施策の方向が該当する基本目標(「計画推進のために」)に該当する場合、(推進)と記述

③領域 C(満足度:高、重要度:低)

- ・ 満足度・重要度の2軸分析において領域Cに該当する9項目の施策項目のうち、改善傾向にある施策項目が6項目、悪化傾向にある施策項目が2項目あります。

<経年推移の観点を加えた満足度・重要度の2軸分析:領域 C の散布図>



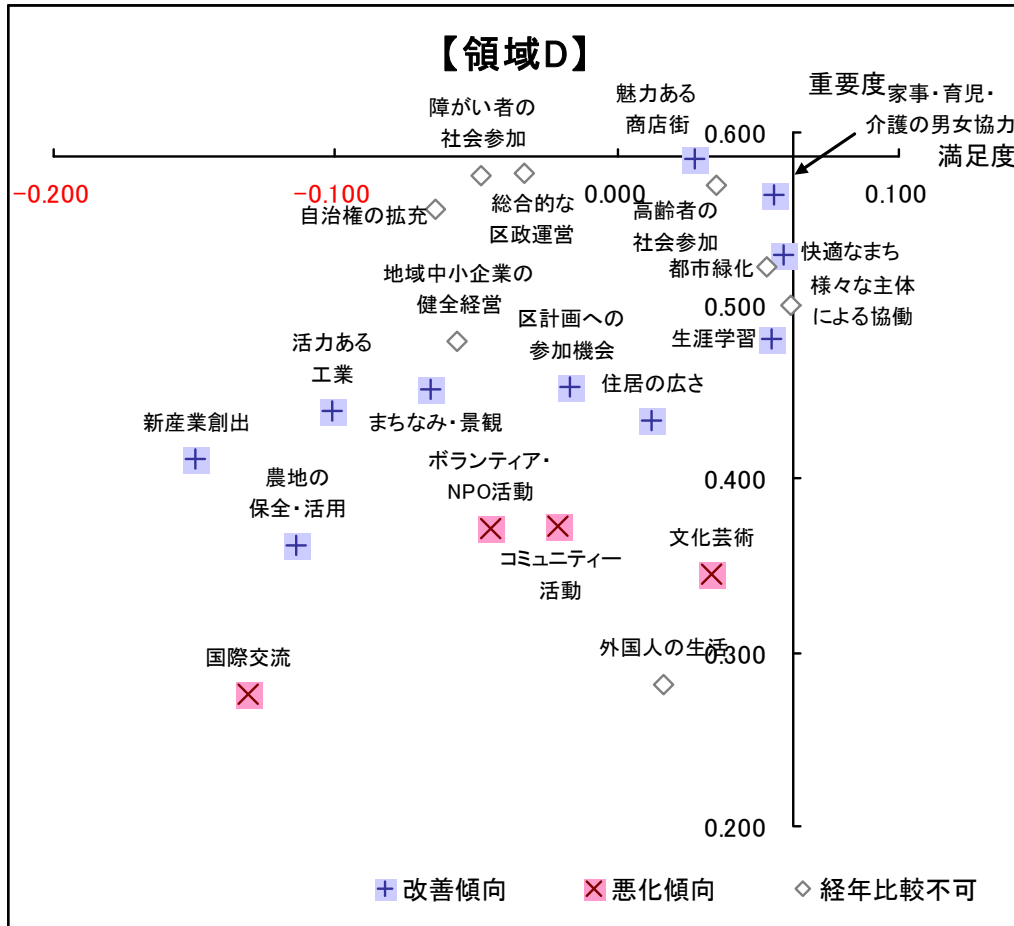
領域	経年推移	該当する施策項目		
領域 C	改善傾向	スポーツ(Ⅰ)	男女平等の社会参画(Ⅰ)	消費生活(Ⅰ)
		名所・旧跡、イベント(Ⅱ)	歴史的な文化財(Ⅱ)	道路の安全(Ⅲ)
	悪化傾向	伝統芸能(Ⅱ)	IT活用(Ⅲ)	—

※()内はその施策の方向が該当する基本目標(「計画推進のために」)に該当する場合、(推進)と記述

④領域 D(満足度:低、重要度:低)

- 満足度・重要度の2軸分析において領域 D に該当する22項目の施策項目のうち、改善傾向にある施策項目が10項目、悪化傾向にある施策項目が4項目あります。

<経年推移の観点を加えた満足度・重要度の2軸分析:領域 D の散布図>



領域	経年推移	該当する施策項目		
領域 D	改善傾向	生涯学習(Ⅰ)	住居の広さ(Ⅰ)	家事・育児・介護の男女協力(Ⅰ)
		魅力ある商店街(Ⅱ)	活力ある工業(Ⅱ)	農地の保全・活用(Ⅱ)
		新産業創出(Ⅱ)	まちなみ・景観(Ⅲ)	快適なまち(Ⅲ)
		区計画への参加機会(推進)	—	—
	悪化傾向	コミュニティー活動(Ⅱ)	ボランティア・NPO活動(Ⅱ)	文化芸術(Ⅱ)
		国際交流(Ⅱ)	—	—
		外国人の生活	—	—

※()内はその施策の方向が該当する基本目標(「計画推進のために」)に該当する場合、(推進)と記述

2. 区政への参加意向に関する傾向分析

(1) 区政への参加意向に関する傾向分析

- 区政・地域活動に対する行政との協働の意向に関する「問11 区政・地域活動に対する志向性」への回答(設問は以下を参照)は、個別項目を単純集計するだけでなく、いくつかの項目への回答結果を組み合わせることで区民の区政・地域活動に対する関心や志向性を深掘りすることができます。

(参考)問11 区政・地域活動に対する志向性に関する質問

問11 区政や地域における団体活動に関して、以下のようなA・Bの異なる意見があるとして、あなたはA・Bどちらの意見に近いご意見をお持ちですか。該当するものを**1つずつ**選び、あてはまる番号に○印をつけてください。

	Aの意見	Aの意見に近い					Bの意見
		Aの意見に近い	どちらかといえば、Aの意見に近い	どちらともいえない	どちらかといえば、Bの意見に近い	Bの意見に近い	
地域の活動	地域のことに自分の意見を反映させたり、活動にも参加したりしたい	1	2	3	4	5	地域のことは熱心に取り組んでいる人達为中心となって考えればよい
区の事業	区の事業に自分の知識や経験が活かされるなら、無報酬でも協力したい	1	2	3	4	5	区の事業に特に関心がなく、余裕もないので協力するつもりはない
コミュニティ・ビジネス	生活に密着したサービスについては、報酬が少なくても取り組んでみたい	1	2	3	4	5	生活に密着したサービスについては、区や企業が提供するのを待つ
地域課題への主体性	身近な地域の課題については、区と協働して主体的に解決していきたい	1	2	3	4	5	身近な地域の課題については、区に要望を出して解決を求める
費用負担意識	地域の生活環境向上のためなら、多少の費用負担や施設の維持管理について協力したい	1	2	3	4	5	地域の生活環境向上のためでも、費用負担や施設の維持管理などの協力を求められるのには抵抗がある

- 次頁の表に基づき、上記の「地域の活動」から「費用負担意識」までの質問に対する回答を組み合わせることで、「①協働する領域に対する志向性」「②生活密着サービスへの関心」「③費用負担意識」の3つの視点から区政・地域活動に対する協力意識により分類を行い、その分類ごとの属性的な傾向を明らかにします。
- なお、表中に記載した○印はより積極的な意見(「Aの意見に近い」あるいは「どちらかといえば、Aの意見に近い」と回答)であることを表し、×印はあまり積極的ではない、あるいは消極的な意見(「どちらともいえない」「どちらかといえば、Bの意見に近い」「Bの意見に近い」のいずれかを回答)であることを表します。

＜区政・地域活動への協力意識の分類＞

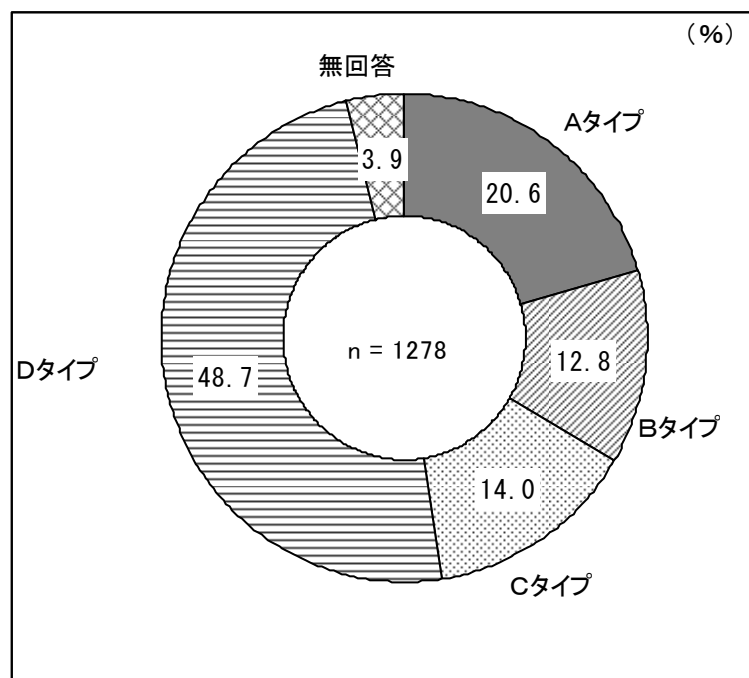
タイプ	タイプごとの特徴	協働する領域			意識	
		地域の活動	区の事業	生活密着サービス	地域課題への主体性	費用負担意識
①協働する領域に関する志向性						
Aタイプ	広義での行政活動全般に協力する意向あるいは関心がある	○	○	—	—	—
Bタイプ	地域における活動には興味があるが、行政活動自体に関心がある訳ではない	○	×	—	—	—
Cタイプ	地域密着の活動よりも、むしろ行政の実施する事業に関心がある	×	○	—	—	—
Dタイプ	地域での活動、行政の実施する事業のいずれに対しても協働への関心が低い	×	×	—	—	—
②生活密着サービスへの関心						
Aタイプ	地域課題に対し、生活に密着した少額有償のサービス提供を通じて積極的に関与したい	—	—	○	○	—
Bタイプ	地域という視点ではなく、生活に密着した少額有償でのサービス提供に関心がある	—	—	○	×	—
Cタイプ	生活に密着したサービスとしてではなく、自身に身近な地域の課題解決に関心がある	—	—	×	○	—
Dタイプ	生活に密着したサービス、地域課題のいずれに対しても関心が低い	—	—	×	×	—
③費用負担意識						
Aタイプ	地域課題に対して主体的であるのみならず、追加的な費用負担に対しても積極的である	—	—	—	○	○
Bタイプ	地域課題に対しては主体的だが、その費用負担に関しては税の範囲内で実施すべきと考えている	—	—	—	○	×
Cタイプ	地域課題の解決は行政の役割であると考えているが、その財源の負担に対しては協力的である	—	—	—	×	○
Dタイプ	地域課題の解決は全て行政の役割であると考えており、その費用負担に対しても税の範囲内であるべきと考えている	—	—	—	×	×

※例えば、「地域の活動」に対して「どちらかといえば、A の意見に近い」、「区の事業」に対して「どちらともいえない」と回答した方は、上記の「①協働する領域に対する志向性」による分類では B タイプに分類されます。

①協働する領域に関する志向性

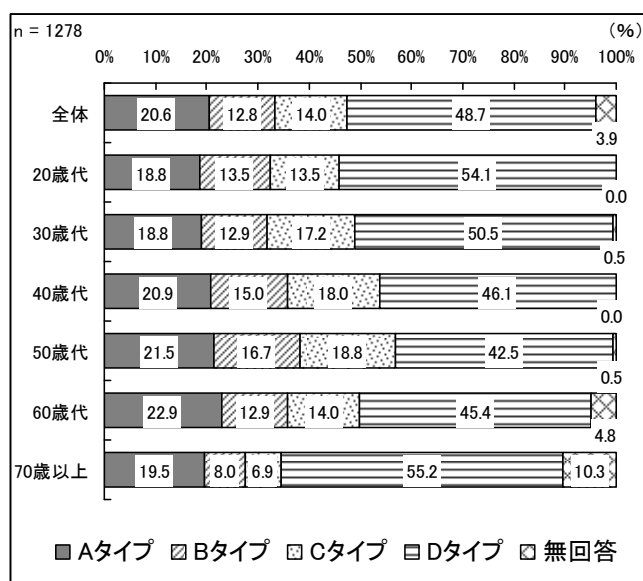
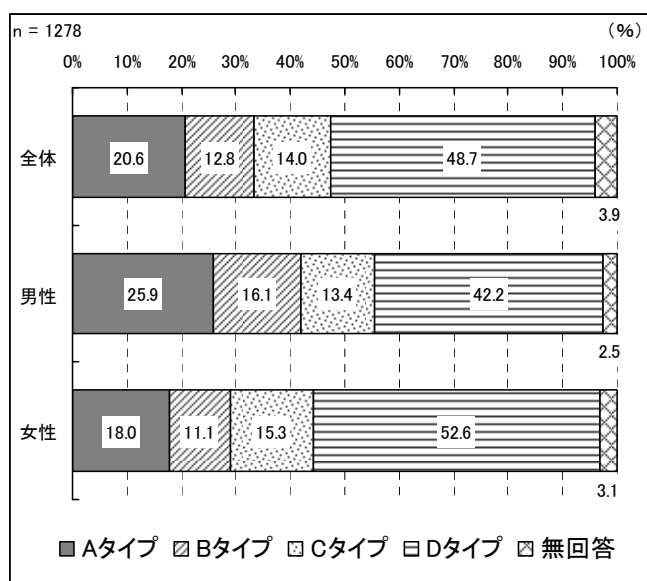
- ・ Dタイプが最も高い48.7%を占めており、「地域の活動」「区の事業」ともに積極的なAタイプが20.6%と次いで大きな割合を占めています。

＜協働する領域に関する志向性:タイプ別の割合＞



- ・ 性別の特徴としては、Aタイプの割合が女性の方が男性よりも7.9ポイント低くなっており、その分Dタイプの割合が女性の方が男性よりも10.4ポイント高くなっています。
- ・ 年齢別の特徴としては、Aタイプ・Bタイプ・Cタイプにおいて概ね年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向が見られ、Aタイプは60歳代、Bタイプ・Cタイプは50歳代で最も割合が高くなっています。

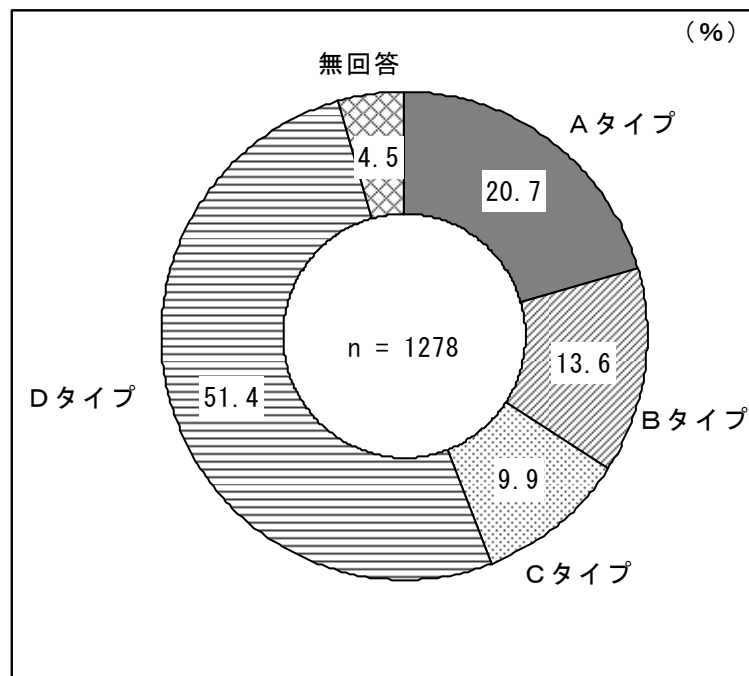
＜協働する領域に関する志向性:性別・年齢別の特徴＞



②生活密着サービスへの関心

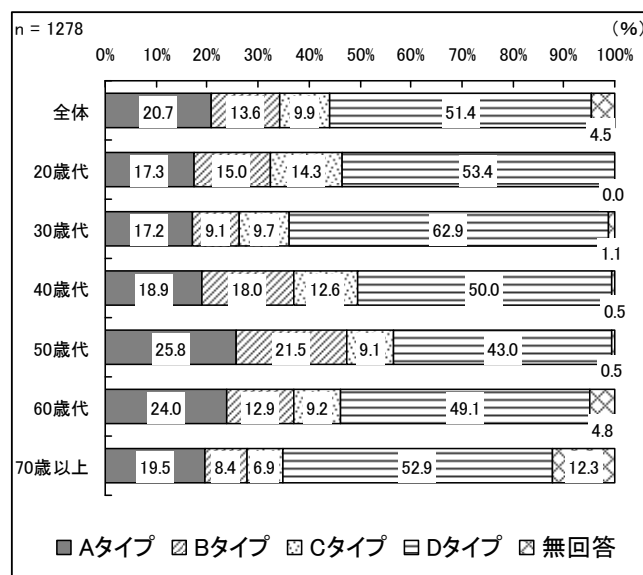
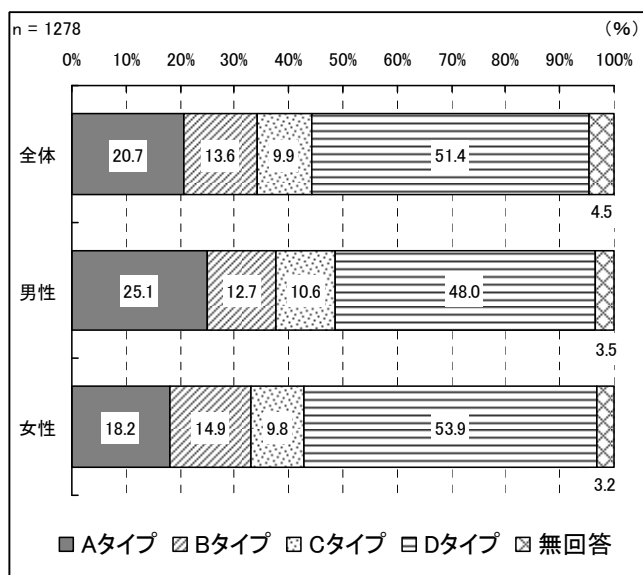
- ・ Dタイプが最も高い51.4%を占めており、「生活密着サービス」「地域課題」に積極的・主体的な Aタイプが20.7%と次いで大きな割合を占めています。

＜生活密着サービスへの関心：タイプ別の割合＞



- ・ 性別の特徴としては、Aタイプの割合が女性の方が男性よりも6.9ポイント低くなっています。
- ・ 年齢別の特徴としては、Aタイプ・Bタイプは50歳代、Cタイプは20歳代で割合が最も高くなっています。

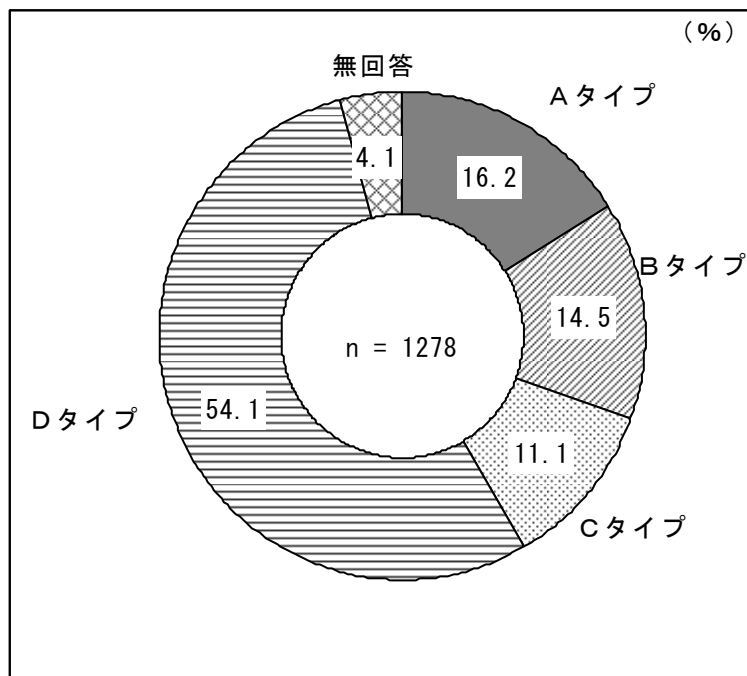
＜生活密着サービスへの関心：性別・年齢別の特徴＞



③費用負担意識

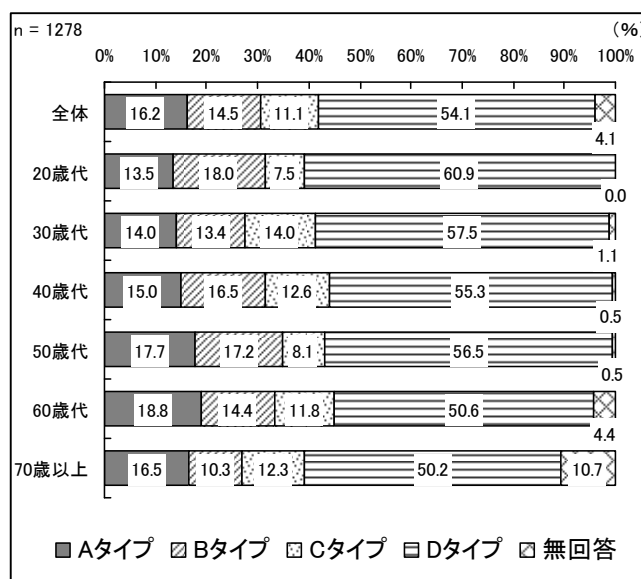
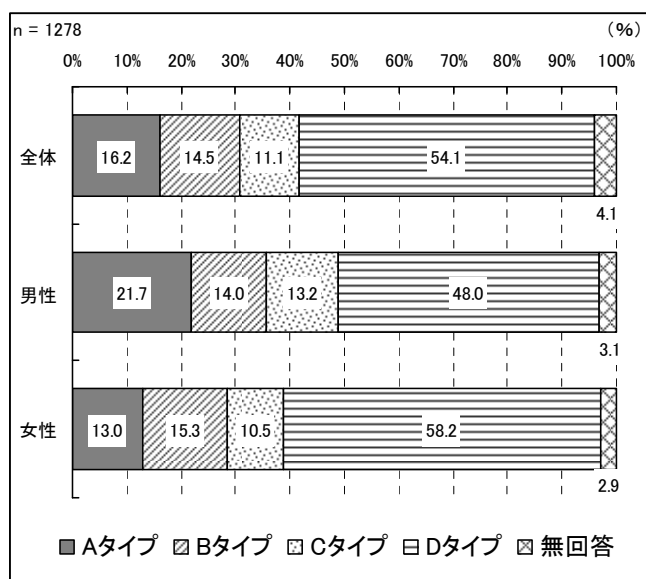
- ・ Dタイプが最も高い54.1%を占めており、「地域課題」「費用負担」に主体的・積極的なAタイプが16.2%と次いで大きな割合を占めています。

＜費用負担意識:タイプ別の割合＞



- ・ 性別の特徴としては、Aタイプの割合が女性の方が男性よりも8.7ポイント低くなっており、その分Dタイプの割合が女性の方が男性よりも10.2ポイント高くなっています。
- ・ 年齢別の特徴としては、Aタイプは60歳代、Bタイプは20歳代、Cタイプは30歳代で割合が最も高くなっています。

＜費用負担意識:性別・年齢別の特徴＞



3. 成果指標の見直しの考え方と方向性

(1) 成果指標の見直しに関する基本的な考え方

- 行政経営資源が施策を通じて公共サービスなどの行政活動として区民に提供され、最終的に区民の満足度などに至るまでには、「投入⇒活動⇒産出⇒成果実現」という4つのステップを経ます。各ステップを評価する基準として以下の4種類の指標が存在し、指標ごとに計測対象及び使用目的が異なります。

(a) 投入(インプット)指標

その施策の実現のために投入された行政経営資源の投入量を計測した指標。予算管理・定員管理など行政内部での資源管理に主に用いられる。

(b) 活動(アウトプット)指標

その施策の基で実施された行政活動(=例えば、生涯学習講座の実施回数など)を計測した指標。進捗管理・達成度評価など行政内部での執行管理に主に用いられる。

(c) 中間成果指標

その施策の最終目的達成ではないが、最終目的に至る中間的な効果として産出される成果を計測した指標。区民に対する成果の公表及び最終的な目的達成に至る過程の分析に主に用いられる。

(d) 最終成果(アウトカム)指標

その施策の最終目的の達成度合いを把握する指標。区民に対して最終的に負うべき成果の公表に主に用いられる。

- 地方自治体の総合計画などにおける施策ごとの指標設定の主な目的は、行政内部の管理よりもむしろ区民に対する成果の公表であるため、設定する成果指標は最終成果指標が望ましいといえます。しかし、最終成果指標に対する行政のコントロール範囲が限定的である場合、その代替案として中間成果指標を設定することが考えられます。
- 成果指標の設定にあたっては、その施策の目的が達成された状態を明確に定義する必要があり、行政活動からその状態に至るまでの過程を検討する必要があります。成果指標が妥当であるかを判定する際に見るべき主な視点は、①その施策の受益者が指標の対象者と合致しているか、②その施策の最終目的・意図を正しく反映した指標となっているか(中間成果指標であれば、「最終目的に至る過程を正しく捕捉した指標となっているか」)の2点です。

(2) 成果指標の見直し例

- ・ 前述の考え方を基に、以下の方針に従って検討した成果指標の妥当性判断の基準は、以下の(a)～(c)です。この基準に基づいて妥当性を検討した結果は、次頁の表の「判定結果」列に記述し、その具体的な見直し内容を「具体的内容」列に記述しています。

(a) その施策に係る指標が、中間成果指標のみである

「施策の方向」に関連する指標が複数存在するが、その全てが中間成果指標の場合、施策の最終目的に合致した最終成果指標を最低1つは設定すべきであると考えます。(⇒「指標種別」列を参照)

(b) その施策に係る指標が、成果指標(中間/最終)となっていない

その指標に係る指標が投入指標・活動指標である場合、行政経営資源の投入量により成果が評価されてしまうため望ましくありません。中間あるいは最終いずれかの成果指標に変更すべきであると考えます。(⇒「指標種別」列を参照)

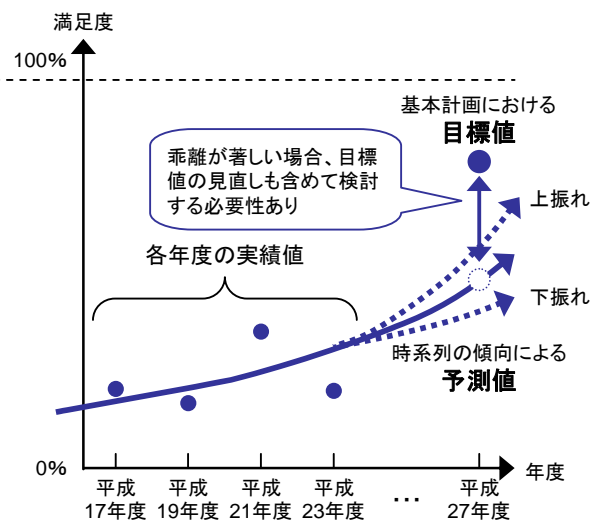
(c) 施策の受益者・意図と指標が不一致である

その施策の想定する受益者が指標の対象者と一致していない、あるいはその施策の最終目的・意図を指標が正しく反映していない場合、当該指標はその施策の指標として望ましくありません。ただし、当該施策が特に重点層を定めている場合は、指標の対象者が重点層に限定されることも考えられます。(⇒「受益者の適正さ」列、「施策意図との合致」列を参照)

- ・ また、成果指標はデータの取得・集計、結果の確認・精査など管理するための負荷が掛かるため、過剰に設定することは行政運営上望ましくありません。上記の(a)～(c)以外にも、その施策に対して過度に多く成果指標が設定されている場合は、いずれかを庁内でのみ管理する参考指標とすることも含めて見直しを検討する必要があります。

(3) 成果指標の平成27年度時点の目標値に関する考察

- ・ 全72項目の施策項目のうち、47項目は平成17年度の区民満足度調査より調査対象として経年で聴取されています。これら項目は平成17年度から平成23年度までの時系列の傾向を見ることで、「板橋区基本計画」の目標年度である平成27年度の水準を近似曲線などを用いて予測することが可能です。
- ・ 基本計画では、各施策項目に対して「満足」「まあ満足」と回答した方の割合の合計値を高めることを目標としています。平成27年度時点の予測値と基本計画にて設定された目標値の大小を比較し、予測値が目標値に対して著しく低い場合、目標値達成は困難であることが予測され、施策をより一層推進するだけでなく目標値自体を見直すことも視野に入れて検討する必要があります。
- ・ なお、予測値が目標値を下回る場合でも、今後、その施策の効果が従来よりも現れてくれば実測値が予測値よりも上振れする可能性があります。逆に、施策の効果が従来よりも薄れれば実測値が予測値よりも下振れする可能性もあります。したがって、予測値については上振れ・下振れのリスクがあることを踏まえ、ある程度のプラスマイナスの幅を持たせて考える必要があります。



個別目標		施策の方向	成果指標		判定基準			判定結果		備考
ID	名称	名称	ID	名称	指標種別	受益者の適正さ	施策意図との合致	結果	具体的内容	
I-1	安心して子どもを産み育てられるまち	子育て家庭への支援の充実	1	子育てしやすい環境が整っていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			
			2	子どものための福祉サービスが整っていると感じる区民の割合	中間成果指標	○	○			・個別目標 I-1 と重複（複数施策で重複させる場合、責任範囲が不明確化、施策の効果検証の複雑化などの弊害が発生する懸念に留意する必要あり。）
			3	保育園の待機児数	中間成果指標	○	○			
			4	学童クラブの待機児数	中間成果指標	○	○			
			5	合計特殊出生率	最終成果指標	○	○	見直し	・「0～5歳児人口」と指標種別、受益者、施策意図全てにおいて重複しているため、管理負荷軽減のためにはいずれか一方で十分である。	
			6	0～5歳児人口	最終成果指標	○	○	見直し	・「合計特殊出生率」と指標種別、受益者、施策意図全てにおいて重複しているため、管理負荷軽減のためにはいずれか一方で十分である。	
		7	健康で人間性豊かな子どもが育っていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			・子どもの健全育成にかかわるNPO法人数など客観的な中間成果指標が参考指標として設定されており、引き続きモニタリングしていくことが望ましい。	
		8	子どもと母親の保健体制の充実	休日・夜間も含め、安心して医療が受けられると感じる区民の割合	最終成果指標		○	見直し	・「保健」であるのか「医療」であるか不明瞭であり、また施策の受益者はあくまで「子どもと母親」であり当該質問文では対象層が広く解釈されてしまう懸念があるため、受益者および施策目的を明らかにした質問文に変更することが望ましい。また、その際、前年度までの継続性が失われることには留意する必要がある。	・「病後児保育利用者数」など客観的な中間成果指標が参考指標として設定されており、引き続きモニタリングしていくことが望ましい。
I-2	次世代の生きる力をはぐくむまち	家庭・学校・地域の連携による子どもの育成	9	家庭・学校・地域が協力して子育てに取り組んでいると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			・「児童館利用人数」など客観的な中間成果指標が参考指標として設定されており、引き続きモニタリングしていくことが望ましい。
			10	絶対評価による習熟度達成率	中間成果指標	○		見直し	・「習熟度達成率」では施策意図である「生きる力」の要素が抜けているため、当該施策の意図に直接合致した最終成果指標を追加。「習熟度達成率」あるいはそれに類する客観的な中間成果指標を、引き続き参考指標としてモニタリングしていくことが望ましい。	
		追加	子どもの生きる力が向上する学校教育が行われていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	追加			

個別目標		施策の方向	成果指標		判定基準			判定結果		備考	
ID	名称	名称	ID	名称	指標種別	受益者の適正さ	施策意図との合致	結果	具体的内容		
		障がいのある児童・生徒の教育の推進	追加	障がいのある児童・生徒の教育環境が充実していると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	追加	・当該施策に関連する質問項目がなかったため、今回調査より新規に追加。	・客観的な中間成果指標として、「特別支援学級数(生徒数)」などの追加も有効。	
		教育施設の再編・整備	追加	学校の規模が適正で、施設が整っていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	追加	・当該施策に関連する質問項目がなかったため、今回調査より新規に追加。	・客観的な中間成果指標として、「学校の耐震化率」「適正規模な学校の割合」などの追加も有効。	
		青少年の健全育成の推進	11	不登校児童・生徒出現率	最終成果指標	○	○				
			12	不良行為少年の補導件数	最終成果指標	○	○				
			追加	青少年が非行に走らず健全に育っていると感じる区民の割合	中間成果指標	○	○	追加	・当該施策に関連する質問項目がなかったため、今回調査より新規に追加。		
I-3	一人ひとりが健康づくりに取り組むまち	ライフステージに応じた健康づくりの推進	13	健康づくりに取り組みやすいと感じる区民の割合	最終成果指標	○	○				
			14	基本健康診査受診率	中間成果指標	○	○				
			15	肥満者(BMI25.0以上の人) やせの人(BMI 18.5以下の人)	中間成果指標	○	○				
			16	運動を行っている人	中間成果指標	○	○	見直し	・個別の健康状態、取り組みを表す指標であり、施策意図に対して限定的となっている。最も重視する指標に絞り込み、それ以外は参考指標としてモニタリングするのみで十分である。		
			17	たばこを吸っている人	中間成果指標	○	○	見直し			
			18	睡眠が十分にとれている人	中間成果指標	○	○	見直し			
		健康づくり推進体制の整備	追加	保健・医療・福祉等の関係機関が連携し、健康づくりに取り組んでいると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	追加	・当該施策に関連する質問項目がなかったため、今回調査より新規に追加。	・中間成果指標として、「健康福祉センター利用人数」など客観的な指標の追加も有効。	
I-4	生涯を通じてこころ豊かに過ごせるまち	生涯学習活動の推進	19	生涯学習に取り組むやすいと感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			・「社会教育会館利用者数」「図書館利用者数・館外貸出冊数」など客観的な中間成果指標が参考指標として設定されており、引き続きモニタリングしていくことが望ましい。	
		スポーツ・レクリエーション活動の推進	20	スポーツに取り組むやすいと感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			・「体育施設利用者数」など客観的な中間成果指標が参考指標として設定されており、引き続きモニタリングしていくことが望ましい。	
		良質な住まいの確保	21	住居の広さが十分であるとを感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	見直し	・「広さが十分」であることが区民の満足度に直接的につながる訳ではないので、「居住環境が快適である」「住居の広さが家族構成に適している」などに変更することが望ましい。その際、前年度までの継続性が失われることには留意する必要がある。		

個別目標		施策の方向	成果指標		判定基準			判定結果		備考	
ID	名称	名称	ID	名称	指標種別	受益者の適正さ	施策意図との合致	結果	具体的内容		
			22	公営住宅のバリアフリー化率	中間成果指標	○	○				
I-5	自立とふれあいにより社会参加ができるまち	多様な福祉サービスの確保	23	高齢者のための福祉サービスが整っていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			・「老人クラブ団体数・会員数・加入率」など客観的な中間成果指標が参考指標として設定されており、引き続きモニタリングしていくことが望ましい。	
			24	障がい者のための福祉サービスが整っていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			・中間成果指標として、「障がい者福祉施設利用人数」など客観的な指標の追加も有効。	
			25	子どものための福祉サービスが整っていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			・個別目標I-2と重複(複数施策で重複させる場合、責任範囲が不明確化、施策の効果検証の複雑化などの弊害が発生する懸念に留意する必要がある。)	
			地域生活を支援する介護サービスの拡充	追加	地域に合った介護サービスが提供されていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	追加	・当該施策に関連する質問項目がなかったため、今回調査より新規に追加。	・中間成果指標として、「地域の福祉関連ボランティア・NPO法人数」など客観的な指標の追加も有効。
			自らの選択による自立と社会参加への支援	26	高齢者・障がい者が仕事や地域活動に参加できると感じる区民の割合	最終成果指標		○		(前回(平成21年度)調査より、高齢者と障がい者に質問を分離)	
				27	バリアフリーのまちづくりが進められていると感じる区民の割合	中間成果指標	○	○			・個別目標III-6と重複しており、当該施策よりも施策意図との合致度合いが強いため、当該施策の成果指標としては削除しても良い。
				28	高齢者人口に占める要介護者の割合	中間成果指標	○	○			
				29	介護リスクの高い高齢者のうち介護予防事業に参加した人の割合	中間成果指標	○	○			
		I-6	すべての人が個性や能力を發揮して活躍するまち	男女平等参画社会の実現	30	家事・育児・介護を男女が協力して行っていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○		
31	男女が平等に社会活動に参加できると感じる区民の割合				最終成果指標	○	○				
32	審議会などの女性委員の割合				中間成果指標		○	見直し	・受益者が限定的であり、「男女共同参画に係る各種活動(セミナー、講座など)への参加人数」などの客観的な中間成果指標への代替が有効。		
就労支援の充実	33			働きやすい環境が整っていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○				

個別目標		施策の方向	成果指標		判定基準		判定結果		備考	
ID	名称	名称	ID	名称	指標種別	受益者の適正さ	施策意図との合致	結果		具体的内容
			34	シルバー人材センター実就業率	中間成果指標	○	○			・施策意図の2つである若年層に係る指標が抜けているため、「生活保護における就労支援」「有効求人倍率」など若年層を含む客観的な中間成果指標の追加も有効。
			35	区の障がい者就労援助事業の紹介による障がい者就職件数	中間成果指標	○	○			
		消費生活の安定と向上	36	消費生活のトラブルが少ないと感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			
II-1	地域の課題を協働で解決するまち	多様な人々の地域活動への参画の促進	37	地域社会にふれあいと交流があると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○		(前回(平成21年度)調査より、質問文を変更)	
			38	ボランティア・NPO活動がしやすいと感じる区民の割合	中間成果指標	○	○			
			39	ボランティア・NPO登録団体数	中間成果指標	○	○			
		地域課題解決のためのまちづくり活動の支援	40	区政に関する情報が公開されていると感じる区民の割合	いずれでもない			見直し	・施策意図に直接的に合致しておらず、当該施策の成果指標とはいえない。当該施策としての最終成果指標・中間成果指標ともに存在するため、当該施策の成果指標からは削除しても良い。	
			41	まちづくりや区の計画づくりへの参画機会が充実していると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			
			42	公募委員が委嘱されている審議会・協議会の割合	中間成果指標	○	○			
II-2	産業が発展するまち	板橋の特性を生かした魅力ある商業の振興	43	魅力のある商店街が身近にあると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			
			44	小売商業売り上げ高	最終成果指標	○	○			
			45	小売店数	最終成果指標	○	○			
		生活環境と調和した地域工業の振興	46	地域の工業に活力があると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			
			47	事業所総数	最終成果指標	○	○			
			48	製造事業所労働生産性(従業員4人以上100人未満)	中間成果指標	○		見直し	・施策意図に対して指標の範囲が限定的であるため、参考指標としてモニタリングするのみでも良い。	
			49	区内企業の製造品出荷額(売上額)	最終成果指標	○	○			
		環境変化に対応する中小企業の経営支援	追加	地域の中小企業が連携し健全に経営されていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	追加	・当該施策に関連する質問項目がなかったため、今回調査より新規に追加。	・中間成果指標として、「経営相談件数」「区内倒産件数」など客観的な指標の追加も有効。

個別目標		施策の方向	成果指標		判定基準			判定結果		備考
ID	名称	名称	ID	名称	指標種別	受益者の適正さ	施策意図との合致	結果	具体的内容	
		都市にふさわしい農業の振興	50	農地が保全され活用されていると感じる区民の割合	中間成果指標	○	○			
			51	生産農家戸数	最終成果指標	○	○			
			52	区民農園・体験農園面積	最終成果指標	○	○			
II-3	地域資源を生かした新たな産業を創造するまち	社会ニーズに対応した新産業の創出支援	53	生活に便利な新しい産業が生まれていると感じる区民の割合	中間成果指標	○	○		(前回(平成21年度)調査より、質問文を変更)	
			54	新規創業事業所数	最終成果指標	○	○			
	地域の魅力を生かした観光の振興		55	多くの人が集まる名所・旧跡やイベントがあると感じる区民の割合	中間成果指標	○	○			
			56	花火大会観客者数	最終成果指標	○		見直し	いずれも施策意図に対して指標の範囲が限定的であり、「区内観光入込客数」「主要観光施設の来訪者満足度」など包括的な最終成果指標を最低限1つは追加する必要があります。	
			57	区民まつり観客数	最終成果指標	○		見直し		
			58	農業まつり観客数	最終成果指標	○		見直し		
			59	東京・荒川市民マラソン in ITABASHI 参加者数	最終成果指標	○		見直し		
			60	観光ボランティア数	中間成果指標	○	○			
61	観光ガイド参加者数	中間成果指標	○	○						
II-4	豊かな地域文化をはぐくむまち	文化資源の保存・継承・活用の推進	62	伝統芸能が受け継がれていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			
			63	歴史的文化的財が保存・活用されていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			
			64	指定・登録文化財の数	中間成果指標	○	○			
			65	美術館入館者数	中間成果指標	○	○			
			66	郷土資料館入館者数	中間成果指標	○	○			
		文化芸術活動の支援	67	文化芸術に親しみやすいと感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			
			68	文化会館ホールの稼働率大ホール・小ホール	中間成果指標	○	○			
II-5	異なる文化や価値観を尊重しあい交流するまち	国際交流の推進	69	外国の人々との交流があると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			・「ポーニャブックフェア来場者数」など客観的な中間成果指標が参考指標として設定されており、引き続きモニタリングしていくことが望ましい。
			外国人とともに暮らす地域社会づくり	70	ボランティア講師による外国人の日本語学習者数	中間成果指標	○	○	見直し	・施策意図に対して指標の範囲が限定的であるため、参考指標としてモニタリングするのみでも良い。
		追加	外国人住民が地域に溶け込んで日常生活が送れていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	追加	・当該施策に関連する質問項目がなかったため、今回調査より新規に追加。		

個別目標		施策の方向	成果指標		判定基準			判定結果		備考	
ID	名称	名称	ID	名称	指標種別	受益者の適正さ	施策意図との合致	結果	具体的内容		
		平和都市の実現	71	平和を願う意識が高いと感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			・「平和のつどい参加者数」など客観的な中間成果指標が参考指標として設定されており、引き続きモニタリングしていくことが望ましい。	
III-1	安全・安心活動に取り組むまち	防災・防犯意識の高揚と活動の支援	72	防災意識が高いと感じる区民の割合	最終成果指標	○		見直し	・防災意識が高くなっている主体が不明確であり、「地域の防災意識が高まっている」など範囲を明確にすることが望ましい。		
			73	治安が保たれていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○				
			74	犯罪発生件数	最終成果指標	○	○				
			総合的な危機管理体制の整備	75	衛生上の不安なく食品が入手できると感じる区民の割合	いずれでもない			見直し	施策意図に直接的に合致しておらず、当該施策の成果指標とはいえない。消費生活関連の成果指標への変更や当該施策の意図と合致していることが分かるよう質問文を変更することが望ましい。	
		追加		災害・犯罪・感染症等様々な危機に対応できる体制となっている	最終成果指標	○	○	追加	・当該施策に関連する質問項目がなかったため、今回調査より新規に追加。	・中間成果指標として、「各種防災訓練への参加者数」「AED設置数」など客観的な指標の追加も有効。	
			交通安全の推進	76	交通事故発生件数	最終成果指標	○	○			
		77		自転車利用のマナーが守られていると感じる区民の割合	中間成果指標	○	○			・施策意図に対して対象が自転車関連に限られており、包括的な交通安全に係る区民意識を直接聴取する成果指標の追加も有効。（自転車関連の施策に区として長期的に重点を置いているのであれば、この質問文のままが良い。）	
		78		自転車が関係する交通事故発生件数	中間成果指標	○	○				
		79		放置自転車台数	中間成果指標	○	○				
		III-2	災害に強く住み続けられるまち	被害を最小限に抑える都市の創造	80	地震の時、火災の延焼や建物倒壊などの不安が少ないと感じる区民の割合	最終成果指標	○	○		
81	大雨が降っても水害の不安が少ないと感じる区民の割合				中間成果指標	○	○				
82	建築物の不燃化率				中間成果指標	○	○				
	良好な市街地の形成	追加	安全で利便性の高い市街地となっていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	追加	・当該施策に関連する質問項目がなかったため、今回調査より新規に追加。	・中間成果指標として、「開発調整の適正実施率」「避難所設置件数」など客観的な指標の追加も有効。		
III-3	地域の個性を生かした美しいまち	緑と水の保全と創出	83	空気や水がきれいであると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○				

個別目標		施策の方向	成果指標		判定基準			判定結果		備考
ID	名称	名称	ID	名称	指標種別	受益者の適正さ	施策意図との合致	結果	具体的内容	
		市街地の緑化推進	84	憩える公園や緑地があり、自然環境が整っていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○		(前回(平成21年度)調査より、質問文を変更)	
			85	一人あたりの公園面積	中間成果指標	○	○			
			86	植生被覆率	中間成果指標	○	○			
			追加	街路や建物の緑化が進んでいると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	追加	・当該施策に関連する質問項目がなかったため、今回調査より新規に追加。	
		区民参画による美しいまちづくり	87	まちなみや景観が美しいと感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			・中間成果指標として、施策意図に直接合致した「まちづくりに係る活動への参加人数」「環境美化団体数」など客観的な指標の追加も有効。
Ⅲ-4	環境を守り資源を大切に利用するまち	地球環境問題への取り組みの強化	88	省エネルギーの取り組みが進んでいると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			
			89	ごみ出しのルールが守られていると感じる区民の割合	中間成果指標	○	○			
			90	温室効果ガス(二酸化炭素CO2)排出量	最終成果指標	○	○			
			91	一人あたりごみ排出量	中間成果指標	○	○			
			92	環境マネジメントシステムの構築事業所数(ISO14001、板橋エコアクションを含む)	中間成果指標	○	○			
		資源循環型社会の実現	93	リサイクルが進んでいると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			・「集団回収登録団体数・登録世帯数」など客観的な中間成果指標が参考指標として設定されており、引き続きモニタリングしていくことが望ましいが、「資源化率」など包括的な成果指標の追加も有効。
		生活公害の抑制	94	大和町交差点の環境基準超過日数	中間成果指標	○	○			
			95	二酸化窒素の環境基準達成率	中間成果指標	○	○			
			追加	様々な取り組みで公害の抑制が進んでいると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	追加	・当該施策に関連する質問項目がなかったため、今回調査より新規に追加。	
		Ⅲ-5	暮らしに便利な道路・交通網があるまち	道路・交通体系の整備	96	身近なまちが快適で魅力のある生活空間であると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	
97	電車やバスが便利に利用できると感じる区民の割合				最終成果指標	○	○			・中間成果指標として、「主要駅の乗降客数」「コミュニティバスの利用者数」など客観的な指標の追加も有効。
98	身近な道路が安全であると感じる区民の割合				中間成果指標	○	○		(前回(平成21年度)調査より、質問文を変更)	

個別目標		施策の方向	成果指標		判定基準			判定結果		備考
ID	名称	名称	ID	名称	指標種別	受益者の適正さ	施策意図との合致	結果	具体的内容	
		歩行者の安全の確保	追加	身近な道路を安全に歩行できると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○		(前回(平成21年度)調査より、質問を追加)	・「歩道設置量」など客観的な中間成果指標が参考指標として設定されており、引き続きモニタリングしていくことが望ましい。
		バリアフリー化の推進	99	バリアフリーのまちづくりが進められていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			
			100	交通バリアフリー法に基づくエレベータ設置駅の割合(区内)	中間成果指標	○	○			
		III-6	情報の保護と活用を図るまち	情報の活用	101	インターネットや電子メールなど情報通信技術が普及していると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○	
			102	区政に関する情報が公開されていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			
			103	区ホームページへのアクセス件数	中間成果指標	○	○			
		個人情報の保護	104	区が保有する個人情報を守られていると感じる区民の割合	最終成果指標	○	○			・中間成果指標として、「区の個人情報保護に関する苦情件数」など客観的な指標の追加も有効。

